

日本ブロンテ協会関西支部 2023年大会プログラム

場所 関西大学 第1学舎1号館 A503

(〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 阪急電鉄千里線「関大前」駅下車 徒歩約10分)

日時 2023年3月27日 (月) 13:00~15:45

開会挨拶 (13:00~13:05)

開会の辞

会長挨拶: 栗栖 美知子 (日本ブロンテ協会会長・大東文化大学名誉教授)

研究発表 (13:05~14:05)

1. 『夜ごとのサーカス』と『ジェイン・エア』

小田 夕香理 (富山大学准教授)

2. シャーロット・ブロンテの初期作品における女性像

——セイレンとしてのルイーザ・ヴァーノン——

片山 美穂 (大阪成蹊大学准教授)

講演 (14:30~15:30)

『ジェイン・エア』と美声の聞こえ方

阿部 公彦 (東京大学大学院人文社会系研究科教授)

総会 (15:30~15:40)

閉会の辞

日本ブロンテ協会関西支部事務局

〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1 大阪工業大学 工学部総合人間学系教室 瀧川宏樹研究室内

TEL: 06-6167-5191 E-mail: bronte.kansai@gmail.com

1. 『夜ごとのサーカス』と『ジェイン・エア』

小田 夕香理 (富山大学准教授)

本発表では、アンジェラ・カーター (Angela Carter, 1940-92) の『夜ごとのサーカス』 (Nights at the Circus, 1984) と シャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë, 1816-55) の『ジェイン・エア』 (Jane Eyre, 1847) を取り上げる。カーターが『ジェイン・エア』に関心をもっていたことはよく知られているが、『夜ごとのサーカス』にも、カーターの『ジェイン・エア』への関心は反映されているようである。19世紀末に時代設定された『夜ごとのサーカス』において、鳥のように翼をもつヒロインのフェヴァーズは、女性が男性に支配される構図を次々に覆していくが、孤児であったフェヴァーズの人生には、同じく孤児として登場する『ジェイン・エア』のジェインを思わせる側面があり、また、ジェインの経験を裏返しにしたような側面も見いだされる。主としてフェヴァーズの人生とジェインの人生の比較を行い、『夜ごとのサーカス』と『ジェイン・エア』の関係性を探ってみたい。

2. シャーロット・ブロンテの初期作品における女性像

——セイレンとしてのルイーザ・ヴァーノン——

大阪成蹊大学准教授 片山美穂

シャーロット・ブロンテ (Charlotte Brontë, 1816-55) は多くの初期作品を残したが、それらを彼女は「ロウ・ヘッド日記」 (*Roe Head Journal*, 1836-37) で “the infernal world” と呼んだ。ブロンテにとって、この初期作品の世界は、「アングリアとの別れ」 (“Farewell to Angria”, 1839) で去るべき世界ではあったが、それでもなお、初期作品はブロンテにとって重要な執筆活動の一つである。本発表では、この初期作品のうち、「ザモーナ公爵」 (“The Duke of Zamorna”, 1838) および「ヘンリー・ヘイスティングズ」 (“Henry Hastings”, 1839) 等を取り上げ、これらの作品に登場するルイーザ・ヴァーノンという女性に焦点を当てる。このルイーザの描写において興味深いのは、彼女が、セイレンというギリシア神話に登場する娘に似せて描写されていることである。このセイレンにルイーザを重ね合わせる描写を中心に考察することによって、このセイレンに似せた描写が、作品の中でブロンテが激しい感情を描き出すための文学的戦略として、機能していることを示したい。